

彩の歳時記

令和元年 十月

道の辺の いちしの花の いちしろく人皆知りぬ我(あ)が恋妻は 万葉集

「道端の彼岸花がはつきりと目の引くように愛妻への私の気持ちも知れ渡ってしまった」

いちしの花は老師と書く彼岸花【蔓珠沙華】。いちしろくは、はつきりの意。法華経に蔓珠沙華は天上の花とあり、見る人の悪業を払い、天人が花を雨のように降らしたといえます。赤い彼岸花は蔓珠沙華、白はヒガンバナ・黄色はシヨウキラン 鍾馗水仙、橙色はキツネノカミソリ、ピンクは薩摩美人など異称があります。

九月の野分(颱風)は、花のような雨ではなく、ライフライン切断など大被害をもたらしましたが、十月は、運動会・紅葉狩・収穫を祝う秋祭(ハロウィーンなど)あり、絶好の行楽シーズン。また、今年も国事の即位礼正殿の儀があり、諸外国から要人の来日があり、華やかな月に。

十月の暦

神無月 出雲大社に全国の神様が集まり、他の神社には神様が居なくなる月。

出雲では神在月。他に開冬・初霜月・時雨月

一日 都民の日 東京の小中学校は休校。都立の施設や庭園が無料開放に。

一日 衣替 平安の宮中行事に始まり、現在、学校や官公庁、銀行などで実施。和服では、今も重視され、正式には六月から九月までは単(ひとえ)十月から五月までは袷(あわせ)

八日 寒露【二十四節気】露が冷たい空気と接し、霜に変わる直前で、紅葉が濃くなる。

十日 東京オリンピック開会の日 1964(昭和39)年、アジアで最初のオリンピックが東京で開催、これを記念して、1966~1999年の間は「体育の日」で祝日であった。

十一日 十三夜 旧暦九月十三日。後の月・粟名月などとも呼ばれる。中秋の名月が中国伝来対して、日本独特の行事。両方を同じ場所で眺めるのがよいとされる。

十二日

芭蕉忌 松尾芭蕉【1644~1694】の忌日。三重県伊賀の人。時雨月に因み「時雨忌」



北村季吟門下で、桃青から芭蕉と改めた。俳諧を「蕉風」と呼ばれる芸術性高い句風を確立し、俳聖として世界的にも知られる。1689年に「奥の細道」の旅に出て、諸国で名句を詠む。句碑には、「はせを」と記されることが多い。今も芭蕉の足跡を辿り、吟行する人が後を絶たない。「奥の細道」の冒頭「月日は百代の過客にして、行き交ふ年もまた旅人なり」は、有名秋深しとなりは何をする人ぞ 物言えば唇寒し秋の風

十四日 体育の日 国民の休日 1966~1999年は10月10日。2000年より第二月曜日

十七日 神嘗祭 1947(昭和22)年までの祭日。天皇がその年の新穀を伊勢神宮に奉納する祭。

二十二日 即位礼正殿の儀 御即位を公に宣明され、内外の代表がお祝いする儀式。テレビでライブ中継。儀の終了後、皇居・宮殿から赤坂御所にパレード、国民の祝福を受けられる。

二十四日 霜降【二十四節気】朝晩の冷え込みが厳しくなり、日が短くなったことを実感する。



三十一日 ハロウィーン キリスト教の全聖人の祝日「万聖節」の前夜祭。古代ケルト族の収穫祭と悪魔払いが融合した祭。行事の少ない十月にディズニールランドなどを中心に人気イベントに。

十月の歌

アイ・ラブ・ユー 詞・曲・歌 尾崎豊【1965~1992】

1983年のファースト・アルバム『十七歳の地図』の収録曲。熱烈で破壊的なパフォーマンスが、当時のファンに熱狂的に支持され、夢や愛、社会や学校への葛藤や心の叫びを表現した楽曲の数々が80年代から90年代初頭の若者に共感を呼び、26歳で夭折したことにより、カリスマ的存在に。葬儀には四万人のファンが集まった。この曲は生前のライブでもほぼ欠かさず演奏されており、彼の死後も様々なメディアに使用され、多くのミュージシャンがカバー。倉本聡の名作ドラマ『北の国から』の挿入歌。

